

# あっぷるかわら版

## 9月号



### 格差のおはなし

**あ**っぷるの活動は今年で24年の時間が流れます。24年となれば、歴史と呼べるかも知れません。それは、精神障がい者を取り巻く環境の歴史とも呼べると思います。当時の精神障がい者は、精神科病院から退院したものの、行く当てがなく、「病院か自宅か」の選択肢から、どちらでもない、「居場所」が誕生しました。また、時代の流れから、精神保健法は、精神保健福祉法の名に変わり、初めて「福祉」の要素が盛り込まれました。そして、障害者自立支援法という、福祉に市場の原理が組み込まれ、後に障害者総合支援法となり、現在に至ります。法律が変わり、さまざまな福祉サービスが生まれ、あっぷるのような就労継続支援B型事業所等が出来ました。その様な中、精神障がいや知的障がいを持つ者、また、様々なハンディーを抱えた人々の生活水準も上がっています。しかし、精神障がいや知的障がいを持つ彼らと同じように、いわゆる健常者の私たちの生活水準も様々な技術の進歩により上がっています。

僕が危惧するのは、その格差です。発達障がいにたとえてみると、以前は少し変わった人として、変わり者ながらも地域の中で、社会の中で暮らしていましたが、今日では、発達障がいの言葉が一人歩きし、少しでも変わった行動をすると、直ぐに発達障がいではないかとレッテルを貼られます。うつ病も同じようなことが言えると思います。昨今を揺るがす新型コロナウイルスも同じです。誰もがなりうる可能性がある中で、かかった人に対し、異常なまでの攻撃や、メディアやインターネットによる情報の混乱などを目にする度に、精神障がい者や様々なハンディーを抱えた彼らと今日の社会とを重ねてしまいます。精神障がい者を取り巻く環境は、表面的にはよくなりましたが、まだまだ「格差」は開いたまま、逆に格差は広がったかのようにも思います。

そんな中、毎日、自分の障がいと向き合いながら、また、自分自身の生活を社会に向けて発信しているあっぷるのメンバーを誇りに思います。誰もが幸せになる権利はあります。街の中に、人の中に、これらからもあっぷるは活動し続けます。今後も温かいご支援の程宜しくお願いいたします。

精神保健福祉士 山下 千里

### あっぷるメンバーからの言の葉

あっぷるを利用している人(メンバー)からの言葉を添えます。( )内はペンネームです

籠屋町のあっぷるで働き始めてメンバーと少しづつ仲良くなっていきました。籠屋町の時は、喫茶店からボードウォークにあるスイーツ工房に弁当や餃子商品を運んだり、マルシェの時は大量の荷物を運んだり、大変でした。南庄町に来てから出来る仕事も増えて喫茶店とスイーツ工房も一緒になって、メンバーとさらに仲良くなってきて楽しくしています。弁当製造では、弁当のごはんをしゃもじでならしたりふりかけを振ったり、前は上手く出来なかったけど、出来るようになってきました。男性のメンバーは少なく、これからもっと頑張りたいです。これからもあっぷるをよろしくお願いします (K.I)

私は、来はじめてから1日も休まずあっぷるで頑張っています。

中学二年生の時に大きな交通事故にあい、その時からあっぷるを知るまでの間、ずっと家にいました。もうずっと、どこにも仕事にいけないのかなと思っていました。

でも知り合いの人が「あっぷるって言う場所があるよ」って言うてくれたのが、私とあっぷるの出会いです。すごく楽しい仕事場と出会えて嬉しくて、毎日頑張っています。

沢山のお客様が来てくださって元気で明るく、週4回の弁当作りやランチ作りを朝早い時間からメンバー全員が協力しあって一人一人が盛り付けしています。みんなで作ったあっぷるのお弁当やランチを買いに来てください (Y.B)



裏面もあるよ

# 5のつく日は 55ランチ

街の中の喫茶店あつぷるでは、月に一度、5のつく日は、本来700円の日替わりランチが、

550円とお得になります。今月は**9月25日**(土)を予定しています。無くなり次第終了となります。

是非お越しください。

9月25日は月に一度のお得なランチ「55ランチ」です。

普段は、700円のランチが、明日は税込み550円でお召し上がりできます。

営業がお休みのミーティング中に、「お客様が並ぶお店にしたい」との発案から、55ランチが誕生しました。

本来ならば、原価計算や利益計算など電卓と目を合わせながら、販売金額を設定するかもしれませんが、我々は、企業や、会社ではなく、社会福祉を行う社会福祉法人です。もちろん、売り上げは、あつぷるに通う利用者のお給料(工賃)となるので、何でもいいと言う訳ではありません。

今日の障害福祉サービス事業所、就労継続支援事業所では、「工賃向上」を掲げ、全国的にもこの工賃とのにらみ合いが多くあります。しかしながら、「工賃向上」ばかりが先立つと、社会福祉ではなく、企業や会社となっています。また、最大の懸念は、工賃を生み出せない利用者や生産性の少ない利用者は「排除」していく状況を作り兼ねないと思うのです。社会からこぼれ落ちそうな方、どこにも行く当てがない等、障がいがあるから故に生じる様々な障壁から守る、社会のセフティーネットのとしての役割を担うのが、本来の社会福祉だと思います。そんな中、工賃向上ばかりで、「排除」せざる状況が社会福祉なのか、、、考えてやみません。

上記したように、障がい者とお金を考えた時に、やはり裕福ではなく、金銭的にも切迫した状況の人が多くいます。ですから、障がい者はこんな給料で十分だろうとは、微塵も思っていません。しかし、お客様が、お店の外に並ぶことによって、喜びや、自信が生まれます。また、そのお店で働いている誇りや、少し頑張った後の疲れがいわゆる、精神病の病気の安定や回復につながっていくと思います。そして何より、みんなが頑張っている姿や、終わった後のなんともいえない笑顔を見ると「排除」と言う言葉とは対局の位置に僕を導いてくれます。そんな月に一度の「55ランチ」は9月25日(土)予定されています。



## タウン情報誌「WIREママ9月号」に掲載されました



ちよびり大人な濃い抹茶と

自家製餡の豊かな風味に感動

街の中の喫茶店 あつぷる

主役は香り高い宇治抹茶を惜しみなく使用したシロップとじっくり吹き上げた自家製餡。すっきりと甘く上品な口あたりをふわっと溶ける氷とともに楽しんだら、次は舌を揺る糖子烏冬サウダッチの流し蜜、やわらかな白玉、氷の下に潜む抹茶アイスをお互いの中へ、ひとつの器の中で多様な味わいがお互いを引き立てあい、食べる人を夢中にさせる。好みでさらに流し蜜を加えたり、練乳をたっぷりかけたり、甘さの濃いを存分に堪能して。

tel:088-679-8225  
徳島市南庄町5-13-1  
● 営:11:00~15:00  
● 休:日・月・火・水・祝日  
● 席:30席  
● P:1台  
● HPは「アートランドあつぷる」で検索



かき氷特集にて、「自家製餡と抹茶のふわふわかき氷」を掲載して頂きました。かき氷は、9月中旬まで販売予定です。

街の中の喫茶店あつぷる・あつぷるスイーツ工房  
営業日 水・木・金・土 (休業日 月・火・日・祝)

※ 祝日営業はお知らせします。

営業時間 11:00~15:00

ランチ 11:30~15:00 無くなり次第終了

Tel: 088-679-8225 予約可能



社会福祉法人アートランド  
ホームページQR

